

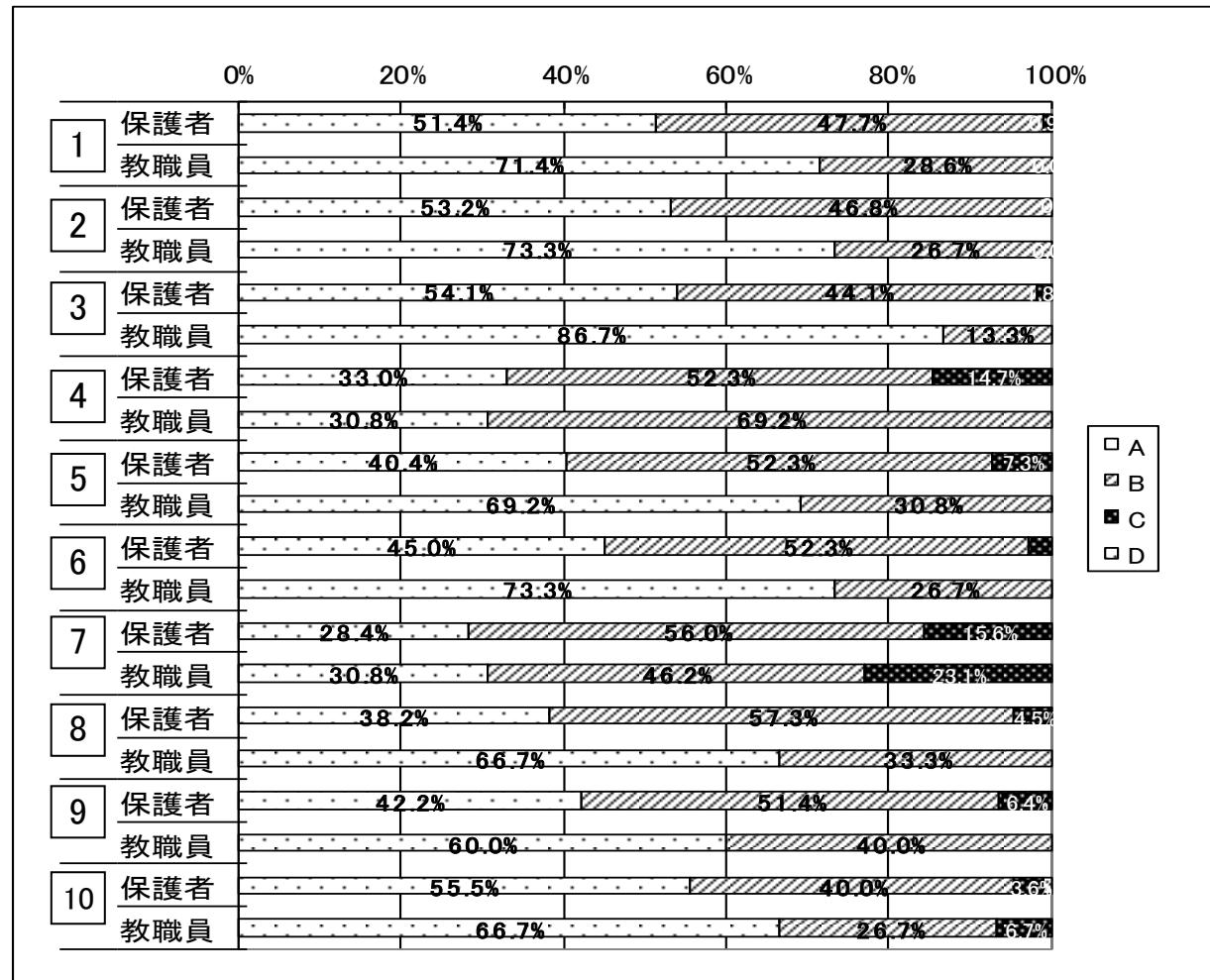
## 後期 学校評価アンケート結果について

京都市立乾隆小学校  
校長 山本 太郎

先日は、学校評価アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。以下の通り、アンケート集計結果をお知らせいたします。回収率は、76%でした。

## 保護者・地域、教職員 アンケート項目

- 問1 教育方針や取組内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている。  
 問2 教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている。  
 問3 子ども一人ひとりが大切にされて、認められる学校づくりを進めている。  
 問4 宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている。  
 問5 教科の学習内容がわかり、基礎的な学力が身に付く取組を進めている。  
 問6 集団での規律やマナーなどが身に付くような取組を進めている。  
 問7 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。  
 問8 子どもが成就感や満足感を感じながら学校生活を送れるような取組が進められている。  
 問9 子どもに力をつけていってほしいという保護者の思いや願いに応えようする姿勢が見られる。  
 問10 様々な取組や行事等を通して、家庭・地域と協力して子どもの教育にあたっている。



A : よくあてはまる B : ややあてはまる C : あまりあてはまらない D : あてはまらない

## アンケート結果から ※( )内は、昨年度1月との比較

全体の傾向としては、これまでの保護者アンケートの結果と同じ傾向が見られました。本校の強みは維持されつつも、課題となる項目でも目立った改善を認めることができないという評価であると認識しています。

**問2 『教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている。』**では、「よくあてはまる」が53.2%(-1.0%)、「ややあてはまる」が46.8%(+1.8%)という評価をいただいています。また、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」はいずれも0%でした。教職員が、学校教育目標の達成に向けて子どもたちへの指導に向かう姿勢を、高く評価していただいた結果であるととらえています。教職員評価でも、「よくあてはまる」が73.3%(+13.3%)となっています。今度も、子どもたちのために汗を流すことのできる教職員集団でありたいと思います。

**問4 『宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている。』**は、これまでと同様に課題が存在する項目です。「よくあてはまる」は33.0%(-3.7%)、「あまりあてはまらない」は14.7%(+5.5%)となり、昨年度と比較すると、家庭学習の定着に対する評価は低下する結果でした。教職員評価でも、保護者とほぼ同様の結果となり、家庭と学校がともに課題として認識している項目です。宿題は、子どもたちの基礎・基本の学力の定着を図り、家庭での学習習慣が身に付くようにすることをねらいとしています。子どもたちにとって、宿題は「やらなければならないもの」であります、「ねらいをもって自分で計画し、取り組むもの」であってほしいと思います。このような姿をめざして、学年に応じた自主学習の取組などをさらに進めていきたいと考えています。

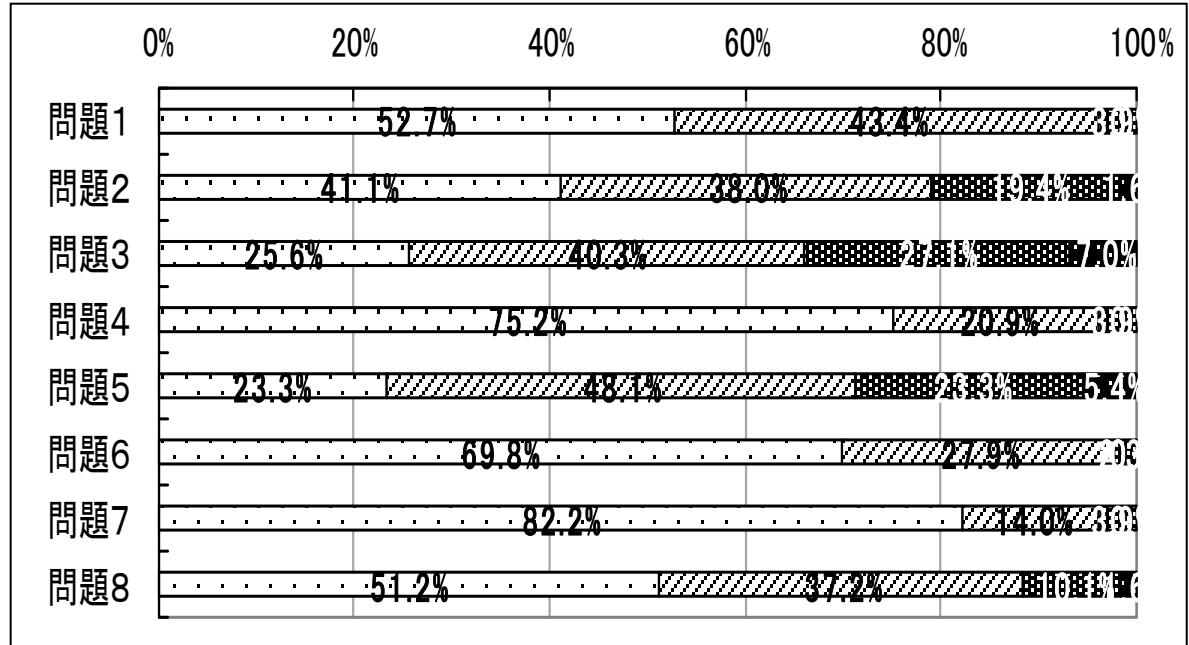
**問6 『集団での規律やマナーなどが身に付くような取組を進めている。』**では、「よくあてはまる」が45.0%(+2.5%)となりました。わずかではありますが、規範意識を育てるための取組への評価が上昇しています。児童会の「毎月の行動目標」の取組を通して規範意識を育て、進んでよりよい行動をとることができるようにしていくとともに、教職員が子どもの「鑑」となるような行動を示していくことも必要であると考えています。

**問7 『早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。』**は、保護者・教職員とも課題があると考えている項目ですが、目立った改善を見ることができませんでした。「よくあてはまる」については28.4%(-5.2%)という評価でしたが、この項目は、9月に実施する前期学校評価を後期の方が評価の方が下回る傾向があります。寒くなると、どうしても朝が起きにくくなってしまいます。一度、生活リズムが乱れてしまうと、それを元に戻すには努力が必要になってきます。毎日を元気に過ごすことができるよう、生活リズムの小さな乱れを見逃さず、ご家庭でもお声掛けくださいようお願いします。

**問9 『子どもに力をつけていってほしいという保護者の思いや願いに応えようする姿勢が見られる。』**では、「よくあてはまる」が42.2%(-4.4%)、また「あまりあてはまらない」という回答は6.4%(+2.5%)となりました。多くの保護者の皆様から、学校の取組や姿勢に対して一定の評価をいただいているが、保護者の皆様の願いに応えられるよう、より一層、真摯に教育活動に取り組んでいく必要性を感じる結果ともなりました。

## 児童アンケート項目

- 問1 あなたは、学校が楽しいですか。  
問3 授業中に発表していますか。  
問5 早寝早起きをしていますか。  
問7 朝ごはんを食べていますか。
- 問2 勉強（授業）はわかりますか。  
問4 宿題をしていますか。  
問6 あいさつをしていますか。  
問8 使ったものあとかたづけをしていますか。



## アンケート結果から

全体として、児童が安心して学校生活を送っており、学習においても前向きに取り組んでいる様子がうかがえます。

**問1『あなたは、学校が楽しいですか。』**では、「よくあてはまる」が 52.7%(-3.1%)、「ややあてはまる」が 43.4%(+3.5%)という結果でした。あわせて 96.1%の子どもたちが、学校で過ごすことを楽しいと感じているという様子が読み取れます。

**問2『勉強（授業）はわかりますか。』**では、「よくあてはまる」が 41.1%(+2.7%)、「ややあてはまる」が 38.0%(+0.3%)という結果でした。あわせて 79.0%の子どもたちは、「学習内容がわかる」と考えています。しかし、依然として 21%(-2.9%)の子どもたちは、学習に何らかの困りや不安をもっているという結果でもあります。子どもたちの評価が若干改善していることは取組の成果と言えますが、一人一人の子どもに届く支援を充実させ、今後も授業改善を図っていきたいと思います。

**問5『早寝早起きをしていますか。』**では、「よくあてはまる」が 23.3%(-7.9%)と昨年度比較で大きく評価を下げていますが、その分、「ややあてはまる」が増加しています。また、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計は 28.9%(-1.5%)であり、全体的には改善傾向にあるとも言えます。

**問8『使ったものあとかたづけをしていますか。』**は、「よくあてはまる」が 51.2%(+4.8%)となりましたが、反面、「あまりあてはまらない」が 10.1%(+5.8%)と相反する結果となりました。今後も、規範意識を育てるための取組を大切にしていきたいと思います。

## 自由記述欄より

(※紙面の都合上、いただいたご意見の一部を抜粋して掲載しています。)

<学校生活・学習に関して>

- ・コロナ禍で充分な活動がしにくい中、工夫して授業でも楽しいことを考えてくださりありがとうございます。
- ・こんな状況の中でも、今できる事、気持ちが前向きになるような声かけや、乗りこえる力を養ってくれる指導を願っております。いつもありがとうございます。
- ・いつも息子がお世話になりありがとうございます。学級閉鎖等日々コロナによって生活環境が変化し、対応されるのが大変だと思いますが、これからも子どもたちのためによろしくお願いいいたします。
- ・門扉を常に開放しているのが気になりますが（防犯上）、インターホンの設置などご検討いただけませんでしょうか。

⇒ コロナ禍での学校生活期間も、2年になりました。この間、本来できるはずだった活動や行事も縮小や中止を余儀なくされています。「オミクロン変異株」が感染の主流となってからは、立て続けに学級閉鎖となり、子どもたちにも、保護者の皆様にもご心配をおかけすることとなりました。

このような中ですが、1人1台配備されたGIGA端末の活用が進み、普段の学習の中でも子どもたちは新しいツールを使いこなし、学習を進めてきました。また、学級閉鎖となった場合でも、1日に数時間ではありますが学校と家庭をオンラインでつなぎ、教育活動を止めることなく乗り切ることができました。

来年度以降の感染状況がどのようにしていくかを予想することはできませんが、感染防止対策を取りながら、可能な形で教育活動を推進していきたいと考えています。

⇒ 校門の開放に関しては、これまで保護者の皆様よりご意見をいただき、学校運営協議会理事会や全体会の場で協議を進めてきました。この度、子どもたちの安全確保を最優先とし、令和4年4月より校門を閉めることといたします。保護者の皆様、地域の皆様にはご不便をおかけすることもあると思いますが、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

※この評価結果については、3月16日の学校運営協議会の理事会でも報告させていただきました。理事の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- ・「子どもに力をつけていってほしいという保護者の思いや願いに応えようする姿勢が見られる。」について、「あてはまらない」という回答があった場合、このような保護者に対しては、学校はどういうふうに返していくのか。  
→保護者アンケートは無記名で提出されることもあり、このような場合には直接思いをお聞きして回答することはできませんが、自由記述でいただいた意見に対しては、どのように対応するかも含めて、教職員で共通理解を図り、対応するようにしています。
- ・アンケートの分析については、前年との比較では変化が分かりにくい。もっと以前の（10年前の）結果と比較すれば、経年変化と現在の課題が見えるのではないか。また、もっと大きな規模のデータと比較すると、乾隆の子どもたちの様子がわかるのでは。